改革への新たなる挑戦～IT経営による生産性向上～

情報化月間で表彰される情報処理システムより

大企業で引っ張りだこのセキュリティUSBメモリ

イーディーコントライブ㈱
代表取締役社長兼CEO
小椋　量友紀氏

平文書き込みのできないUSBメモリがBtoB市場で売れている？！

データを何でも取り込み、持ち運びできる道具であるUSBメモリがなぜ、書込みできないのか？その理由はセキュリティにある。

今年の情報化月間の情報化促進貢献情報処理システムに選ばれたのがセキュリティUSBメモリ「セーフティ・ディスクロージャー！コンテナ」。開発したイーディーコントライブ㈱（小椋量友紀＝こむくかずゆき＝社長）を訪ねてみた。

最近の企業にとって、個人情報保護法などにより、社内からの情報漏えい対策は頭の痛いところだ。データを運ぶのに便利なUSBメモリが最近では会社内外では使いづらくなっている。

「会社のPCはアドミン（管理者権限）での利用を許可していないところが多いが、USBができると開発に着手しました」。

イーディーコントライブ

セーフティ・ディスクロージャー・コンテナ

USBにプログラムを内蔵

強制的に暗号化したデータしか書き込めない

Bは、社内に導入するときにはプログラムをインストールしなければ利用できないため、事実上使えない会社で使えるセキュリティ・オフスイッチをプログラムで内蔵してしまえば、数千本の注文が舞い込み、運用が可能なのだ。

同社は、20年以上前から松田誠司取締役（管理者権限）を禁止しているところが多く、ユーザー側が任意でのプログラムのインストールを禁止しているところが多い。市販されている暗号化機能付きセキュリティUSBメモリに書き込まれるデータやDVDのコピーガードを解除されていない平文データは、USBメモリにしか書き込むことができない構造にしたことだ。「これにより、利用者のうっかりミスによる紛失や盗難の際の漏えいリスクを軽減することが可能にした」。

今年4月に完成したところ、大手メーカーから早速、書込みたいデータ（暗号化される）をドラッグ&ドロップするだけで取り込む。インストールや管理者権限が不要なので、最初の起動時のみ利用ユーザーがパスワードを設定するだけ。社内や社外でもシームレスな運用が可能なのだ。

内蔵プログラムが起動し、そのソフトウエアの中に、

手掛けていた。「USBのオプションで内蔵してしまえば、

構造になっています」（同社）。

最大の特徴は、USBメモリに書き込まれるデータが強制的に暗号化され、暗号化されたデータは、USBメモリにしか書き込むことができない構造にしたことだ。「これにより、利用者のうっかりミスによる紛失や盗難の際の漏えいリスクを軽減することが可能にした」。

また大手財関系企業もグループ全体での一括導入を表明してくれている。BtoB環境にマッチしたセキュリティUSBがやっと世の中に登場したというわけだ。

操作は簡単だ。利用者がパスワードを入力すると、

「このプログラムを内蔵した技術、SSM（セキュアシステムメモリ）をいま特許出願中です。USBメモリの大手、バッファローさんとの技術協力で生まれたもので、USBの筐体も同社に製造をお願いしています。

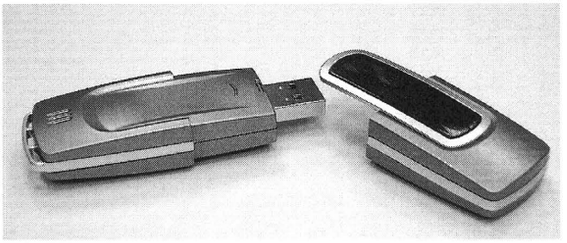
大手の製品である安心感とそれぞれの企業に合わせ、パスワード行数や入力エラー時のデータ削除、ログの取得などカスタマイズしての提供が可能である。

そのため、同社しかないできない“セキュリティUSB”に注文が殺到しきている状況らしい。

実勢価格は256MBで1万1千円、512MBが1万6千円、1Gが2万5千の3種類。Windy対策を施したUSBもあり、これからセキュリティUSBのラインアップを増やしていく方針だ。

「08年度までに10万本を目標にしていきたい。それでもUSBメモリ市場の10%シェアですから高い目標です」と語るがしっかり市場の手ごたえを感じているようであった。

なお、10月1日から、同社はホールディングカンパニー「㈱YAMATO」（鮎川純太社長が就任予定）の子会社となる予定だ。



企業向けにカスタマイズして提供できるセキュリティUSBだ

中堅プロセス産業向け統合管理パッケージ

製造業には組み立て産業といろいろな材料を混ぜ合わせてモノを作るプロセス産業がある。今回、情報化促進貢献情報処理システムに選ばれたJIP（日本電子計算㈱）のJIPROSは、そのプロセス産業のノウハウを盛り込んだ中堅の製薬・化学・食品メーカーに特化した統合管理パッケージだ。

中堅プロセス産業といっても売上50～700億円、従業員100～700人クラスで9000社もあるが、その業界向けのERP（経営資源統合管理）パッケージは実はまだなかった。「組み立て産業向けのパッケージをカスタマイズするか、高価な外資系（SAPなど）のERPを使うか、自社開発のいずれかしか選択肢はありませんでした」（同社営業統括本部営業企画産業文教統括マネージャー関野康生氏）。

というのも、プロセス産業は材料の配合、温度などのさまざまな条件によりパラメータが変化し、その補正や歩留まり、コントロールが非常に難しい。医薬品や化粧品では法律による規制も厳しく、査察チェックの手順もきまっている。

日本電子計算

今までなかった“ERP”

低コストで標準機能が装備できる

「使いにくい汎用パッケージしかない中堅プロセス産業向けに、きめ細かい機能を備えた手頃な価格のERPを開発すればいけると考え、社内公募に応募し、半ば強引に開発プロジェクトをスタートさせました」。

事業構想から発売までに1年半くらい掛かり、2004年4月から発売を始めた。ERPは実績がものを言うため、当初中々注文がこなかったが「ここ1年で5本の商談がまとまり、次々注文を頂くようになってきました」。

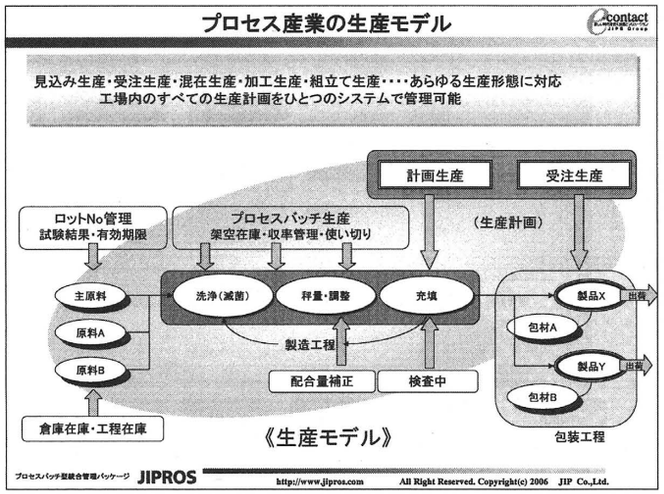
JIPROSは、見込み生産・受注生産・加工生産・組み立て生産など、あらゆるプロセスバッチ型生産に特化、医薬品や化粧品業界に必要とされる業務プロセスやGMP対応機能が標準でサポートされている特長を持っている。

生産・販売・売掛買掛・原価情報の1元管理、企業リスクの低減を実現する品質保証体制構築、ABC活動基準原価計算による原価計算機能、TOCに基づくスケジューラー連動による生産最適化など、ユーザー独自の業務改革要素の検討土台としても活用できる。

また、他社製品に比べ、直販のため価格が30～50%も安く、その割には使い勝手が良く、SIerとしての導入手法が確立されており、サポート・メンテナンス体制が強い点がユーザーに受け入れられた理由のようだ。パッケージ屋のようなお売り切りでない、顧客の経営課題全般を捉えたソリューション提供というJIPらしさが溢れているERPなのだ。

「もともと医薬ではインフォストリームというDBサービスや製薬会社向けの営業システムを手掛けていたのも信頼を得た1つのようです。今後は全国に広がる食品向けにも広めるため、7月に開発センターとしてJIPROSセンターを作りました」。

また、大手ITメーカーにも中堅プロセス産業向けの標準パッケージとして拡販に協力してもらう体制を整えている。「今回の表彰をきっかけに知名度を上げ、3年後にはM社のパッケージ販売本数を追い抜きたい」。JIPでもJIPROSを戦略商品として位置づけており、久々の“孝行息子”の登場で、社内にも明るい風が吹き始めたようだ。



情報化月間

PCを監視する CWATも表彰される

平成18年度情報化月間の情報化促進貢献情報処理システムに、株式会社インテリジェントウェイブ（山本祥之代表取締役）の「CWAT（シーワット）」が選ばれた。PC端末の操作を監視することにより、情報漏えいや不正利用を防止するシステム。企業の内部統制及びコンプライアンス対策として非常に有効である。機能はきめ細かい設定が可能であり、セキュリティポリシー設定機能を備えているほか、普段と異なる挙動の検知機能も備えている。金融機関でも実績多く、高く評価されている。

〈主な特徴〉①監視、防御がリアルタイム、②トータルなセキュリティ機能、③他社の技術と容易に連携、④AI機能による不審操作〈特異挙動〉⑤マルチ言語対応、⑥監査ログ・警告ログ取得